



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 38 号

2021 年 11 月 26 日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

生路小学校 11月の補充学習会

11月24日、25日、26日の3日間、生路小学校で5年生を対象に算数の補充学習会が開催されました。3名のSPさんが活動をしてくださいました。

24日は伊藤SPが来てくれました。伊藤SPは何度か片葩小の「わくわく算数教室」に参加をしてくれています。「わくわく算数教室」で高学年の児童も担当したことがあるからか、見守ることを大切にしてくださいました。子ども自身で考える力がぐっとついてくる高学年。伊藤SP、じっくり待ってくださっていました。そして、程よいタイミングで声をかけて、児童が分かるまで、ジェスチャーを入れながら説明をしていました。伊藤SPの熱い、真っ直ぐな想いが伝わってくる、そんな指導をしてくださいました。



25日は、佐藤SPが来てくれました。佐藤SPは生路小学校のウィークリーSPで、この日、5時間目には6年生の体育に、6時間目には5年生の算数の支援をしてくれたそうです。そして、授業後も残って、この補充学習会に参加をしてくれました。子どもたちとの距離感は抜群です。長机を挟み、子どもたちの前に椅子が置いてありましたが、その椅子を子どもの横に持って行って指導をしてくださいました。きっと「今はこれがベストな位置」と判断してくれたのでしょう。

26日は、西川SPが来てくれました。西川SPは12月から卯ノ里小学校でウィークリーSPとして活動をしてくださいます。先日まで教育実習で5年生を担当し、丁度今回の学習会の内容(分数、少数の計算)を実習で授業したそうで、持参したメモ帳を使いながら分かりやすく説明をしてくださいました。「2、3、5、7、11。先生、この数字は魔法の数字だと思っているんだよね。この数字を使うと出来ることが多いよ。」言葉選びのセンスも抜群でした。



今回参加をしてくれた3人のSPさんは、子どもの話を聞きながら聞いたり、目をみながら優しく支援をしてくださいました。苦手意識が強くなりがちな算数も、こうして優しく、丁寧にサポートしてもらえたら、寄り添ってもらえたら、少しだけやる気が出てきます。「すごいじゃん!」「できたね!」「そうそう。合っているよ。」こうしたちょっとした言葉をかけてもらうだけで、「もう少しだけ頑張ってみようかな」と思えます。SPさんはこうした“寄り添う支援”がとても上手です。徹底的に子どもたちに寄り添ってくださいます。3人のSPさん、ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。